# 稲作・畑作 営農情報

## 健苗育成で活着・初期生育の確保を!!

### 1. 播種準備

**●育苗計画の考え方**

| 品　種 | 田 植 え | | 育 苗 日 数 | | 播　種 | 2日前 | 催　芽 | 6～8日前 | 浸　種 | 2日前 | 種子消毒 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (例)<br>あきたこまち | 5月20日<br>月　日 | → | (　35日)<br>(　　日) | → | 4月15日<br>月　日 | → | 4月13日<br>月　日 | → | 4月6日<br>月　日 | → | 4月4日<br>月　日 |

・田植え予定日と苗の種類からさかのぼって、播種量、播種日を決定します。

・作付面積が大きい場合や複数品種を組み合わせて作付ける場合は、作業計画をしっかり立て、田植えが極端に遅れないようにしてください。また、老化苗とならないためにも、播種量と育苗日数に気を付けてください。

**○育苗日数の目安（70株／坪植）**

| | 中　苗 | 稚　苗 |
|---|---|---|
| 播種量（乾籾） | 100ｇ/箱 | 180ｇ/箱 |
| 育　苗　日　数 | 35～40日 | 20～25日 |
| 目　標　葉　数 | 3.5～4.0葉 | 2.0～2.5葉 |
| 目　標　草　丈 | 13～15㎝ | 10～13㎝ |
| 使用箱数／10ａ | 27箱 | 19箱 |

### 2. 種子消毒と浸種・催芽作業のポイント

**1）種子消毒～浸種作業の流れと注意点**

ばか苗やもみ枯細菌病等防除のため、消毒、浸種の注意点を再確認しましょう。

**①作業の流れ**　※採種ほ産種子は、塩水選の必要はありません。

《未消毒種子》 → 消　毒（・塗　沫　・湿粉衣　・高濃度浸漬（10分間）　・低濃度浸漬（24時間））→ 【風　乾】 → 【浸　種】

《消毒剤吹き付け･塗沫済種子》 → 【浸　種】

【浸　種】
・開始後２日間は水交換しない
・水温10～15℃確保を確保する

**②注意点**

・浸種の水量は、種子容量の２倍程度（種籾１kg当たり水量3.5L）とします。

・籾は吸水すると容積が増えるので、種子袋に入れる量は50～60％にとどめます。

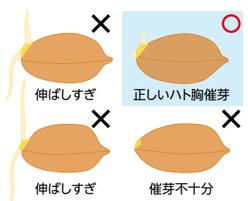
・10℃以下の水温で浸種すると、種子の休眠が深まったり種子消毒剤の効果が低下するので、水温は10～15℃を確保するように努めましょう。

・浸種期間は６～８日程度とし、浸種終了の目安は、籾殻を透かして胚が白く見えるようになった時です。

・種子消毒剤の安定した薬効を確保するため水交換は２～３回とします。また、消毒効果発揮のため、浸種開始から２日間は種子袋を揺すったり、水のかけ流し、循環や交換をしません。

・袋内部の種子まで均一な温度になるよう、催芽前に36～40℃の温水で湯通しを行います。

・催芽は、30～32℃の温度で行います。芽の長さはハト胸程度（催芽長１㎜）とし、伸ばしすぎると損傷が多くなるので注意しましょう。



催芽の目安



## 白神ねぎ

**○長ねぎ栽培について**

３月も半ばを迎え、気温が徐々に高くなってきます。

来る定植作業に向けて、適切な温度・水管理を徹底し、健苗を育てることが重要となりますので、以下の点に留意しながら、日々の育苗管理を行いましょう!!

１）越冬苗

育苗期間が長いため、肥切れしている場合が考えられますので、液肥による追肥をします。

①倍率…今時期は100倍(日照が強い日中は控える)

②ハウスの換気を行う…湿気がこもりやすく、間延びしやすくなります

③過灌水は控える…軟弱徒長しやすくなります

２）当年度播き

夜間被覆し、次の日に晴天日の場合、ハウス内温度が急激に上昇し、蒸れ苗や焼けてしまう場合があります。

朝、温度が低くても、ハウス内の温度（モヤ）を除くために、短期間の換気を行いましょう。

また、換気の際は、直接冷気が当たらないように不織布（パスライト等）を張りましょう。

３）病害防除

小菌核腐敗病（湿度が高く、低温になると発生しやすくなります。）

○原因　気温10～15℃　ハウスの通気悪く、湿度が高くなると発生。

○対策　一回の灌水量を多くし、回数を少なくする。ハウス内の換気を行う。

○防除　定植時の灌注処理に使用しない薬剤を用いる。（トップジンM水和剤またはベンレート水和剤）

## 白神山うど

**○山うど栽培について**

今後は天気の良い日が多くなり、日が差すと日中はハウス内の温度も高くなります。また夜から朝方には低温に注意が必要です。低温時には被覆資材で低温障害回避に努めて下さい。また日中の天気の良い日にはハウス内の温度管理に注意し、寒冷紗等を用いて品質保持に努めて下さい。

春作業の準備として、種株の株分けを行っている方もいますが、株分けの際は腐敗している株は使用せず、健全で大きく充実した株を使用し、株分け後は乾燥させ過ぎないように保管・管理してください。

## 白神きゃべつ

**○きゃべつ栽培について**

２月下旬より播種作業が徐々に始まっています。３月に入り温度も少しずつ上昇してきていますが、まだまだ低温には注意が必要です。低温障害を受けないためにも、ハウス内の温度管理には十分注意して下さい。低温が予測される場合は、被覆資材で被覆したり、ハウス内であってもトンネルを使用して下さい。

育苗期間中の水管理は、朝にたっぷり潅水し、乾くようであれば乾いた部分のみ潅水して下さい。

３月下旬ころからはハウス内温度もあがるため、ハウスの開閉により温度調整をしっかり行い、徒長のないがっしりした苗を育てましょう。

## 白神みょうが

**○みょうが栽培について**

・新植する場合の注意点は、できるだけ西日が当たらない場所や排水の良いほ場を選定し、根茎腐敗病対策に努めます。また、暗渠や明渠を行うことも重要です。

・10a当たり必要な種株は､300～400株､150～200kg（約10,000本）程度を用意し､1～2芽をつけ約15cmに切断した地下茎の病害のない物を種株とします。

・種株の消毒は、ランマンフロアブル200倍を30分間浸漬し、処理後乾燥しない場所で保存します。

・10ａ当たり元肥の施肥量は、完熟堆肥３㌧、てんろ石灰100kg、ようりん60kg、みょうが専用肥料100kgです。

・畦幅100～120cm､畦の高さ20～30cm､通路50cm程度､条間30cm､株間15cmの２条植えを基本とします。

・植え溝は６～８cmにし､定植後覆土･鎮圧をします。